

5 1次評価(Check①&Action①)

	施策指標名	単位	基準値/基準年度		目標値	実績値					
					H32年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	
定量的評価	白井のみどりの環境を自慢に思う市民の割合	%	-	-	72.1	72.1					
	地域の環境保全活動に参加している市民の割合	%	-	-	44.0	33.8					
定性的評価	白井市の良質な環境を市民と守り育てることで、愛着と誇りの持てるまちづくりを進めるためには、時間を要することから、中長期的な視点が求められるが、H28年度は、身近な自然環境への興味、関心を高められるような取組を行うとともに、市民団体、学識者（大学教授）等との意見交換や次年度の取組について検討を行うなど、今後の取り組みの基礎を築くことができた。						進捗状況	<input type="checkbox"/> 順調 <input checked="" type="checkbox"/> おおむね順調 <input type="checkbox"/> やや遅れている <input type="checkbox"/> 遅れている			
課題	喫緊の課題			中長期的な課題							
	自然環境の良さ、自然環境の保全について満足度が高いが、市民が白井市内の身近な自然環境について意外と知らない状況にあることから、興味、関心が持てるよう、さらに認知度を高める必要がある。			市民が市内の自然環境の状況を理解し、市民と市が協働で自然環境を守り、育んでいく必要がある。							
施策の方向性(改善策)	短期的な方向性			中長期的な方向性							
	市内の豊富な自然を有する森の認知度を高めるため、神々廻市民の森で市民団体等とグラウンドワーク活動を実施する。 市内の身近な自然環境に興味関心を持てるよう、緑が形成されてきた歴史や、貴重さなどについて学習機会の充実を図るとともに、市民団体が実施する環境学習を支援、共催で実施する。			市民が市内の自然環境をより理解できるよう、神々廻市民の森でのグラウンドワーク活動を他にも広げていく。 環境学習を通じて、自然環境への興味関心を高め、市民と行政が協働で自然環境を守り、育んでいく。							
施策を取り巻く環境の変化	市街化調整区域の開発について、平成26年度から規制することとなったが、太陽光発電施設の設置に伴う林地開発などにより森林面積が減少している中、市民の自然環境への興味関心を高め、緑の地域資源を守り、育む活動を地域や市民団体等が連携し行政と協働での取り組みが求められている。										
市民と行政の役割分担・協働	<input type="checkbox"/> 行政の役割を拡大 <input type="checkbox"/> 現在の行政と市民の役割分担・協働を維持 <input checked="" type="checkbox"/> 市民の役割・協働を拡大										
	森のグラウンドワークについては市民と行政の協働で進めている。環境学習についても、既に市民団体が行っている環境学習への支援や共催での実施など今後、さらに連携して協働で進めていく。										

6 2次評価(Check②&Action②) 白井市行政評価委員会による評価

改善意見等	・土地所有者を含めた市民の環境保全に対する意識が更に高まるよう啓発等に努めること。
-------	---

7 3次評価(Check③&Action③) 総合計画審議会による評価

改善意見等	※平成30年度に3次評価を実施する。
-------	--------------------

8 3次評価における意見等への対応方針

対応方針	
------	--